平成20年7月23日

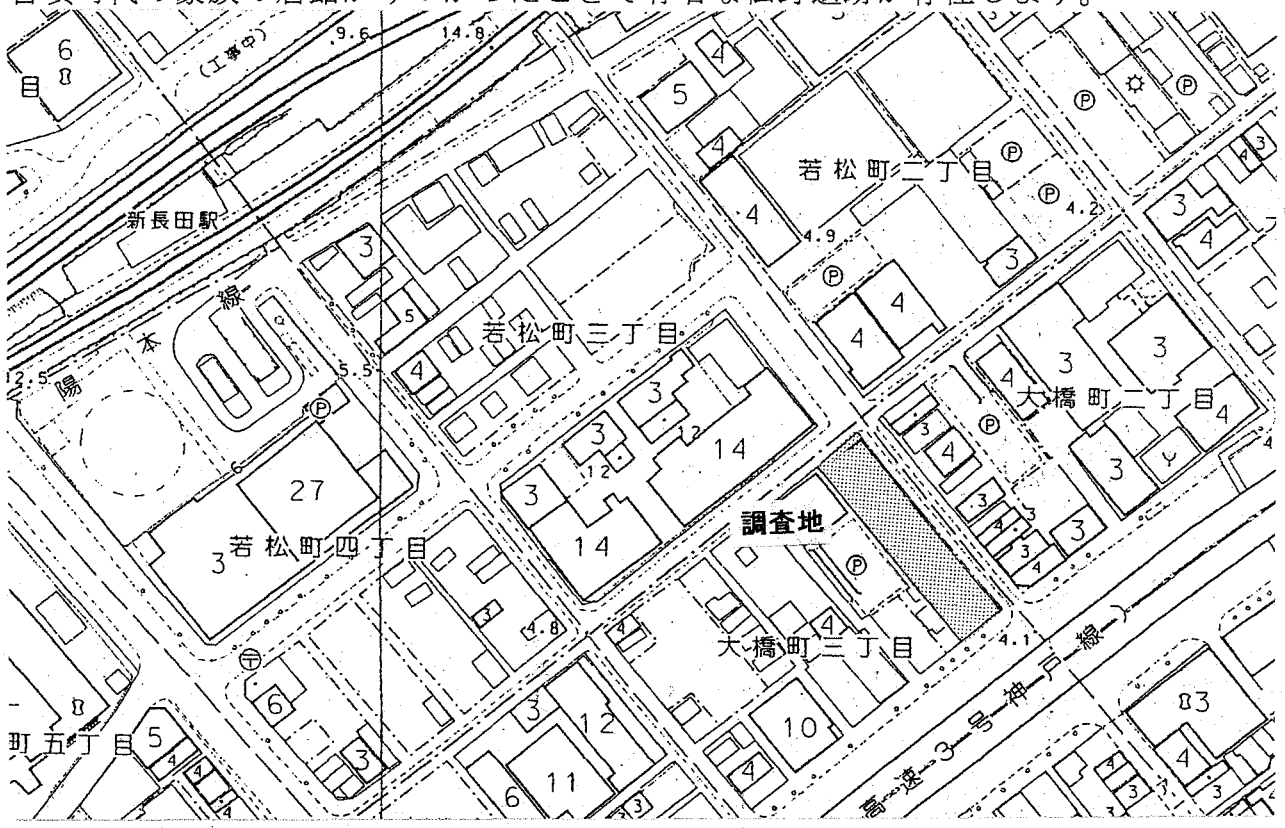
大橋町東遺跡第1次調査成果速報

神戸市教育委員会

大橋町東遺跡は、平成19年に新長田駅南地区再開発事業に伴い新しく発見された遺跡です。この遺跡は、北方に臨む高取山から流れる刈藻川や妙法寺川などの河川によって運ばれた土砂で形成された沖積地とよばれる緩い傾斜地の上に位置しており、標高は海抜5m前後になります。

今回は、第1次調査として大橋町3丁目地区の再開発事業予定部分を平成20年4月より発掘調査しています。

新長田駅周辺には、多くの遺跡が存在することが知られています。大橋町東遺跡では、北に隣接して若松町東遺跡があります。この遺跡は、同じ平成19年に発見され、その後の調査によって弥生時代後期の溝などが確認されています。また国道2号線を挟んですぐ南西には、平安時代末から鎌倉時代の集落に伴う建物や井戸が多数みつかっている二葉町遺跡、西には大橋町遺跡などがあります。さらに北西には古墳時代の豪族の居館がみつかったことで有名な松野遺跡が存在します。



調査地位置図　〔S＝1：2,500〕

今回の調査で、現在までにわかったことについて報告します。

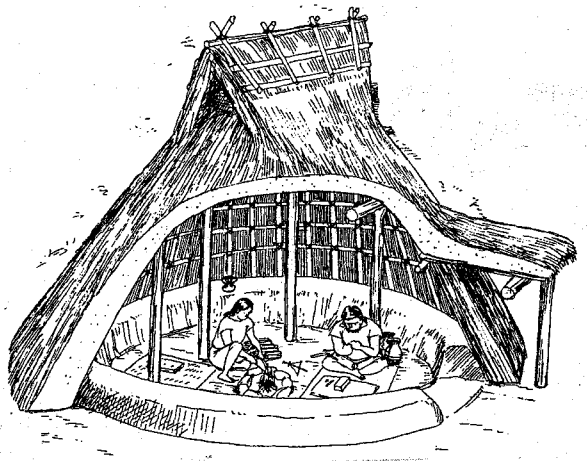
まず、地表面から 60～80 cm下に数時期の田畑の耕作に伴う土が確認されています。中世（平安時代後期～室町時代）から江戸時代にかけては調査地の全面にわたって田畑がひろがっていたようです。

さらに下層からは、平安時代の建物や弥生時代後期（約 1800 年前）・古墳時代中期（約 1500 年前）の竪穴住居（たてあなじゅうきょ）など、生活に伴う跡（遺構（いこう））がみつかっています。

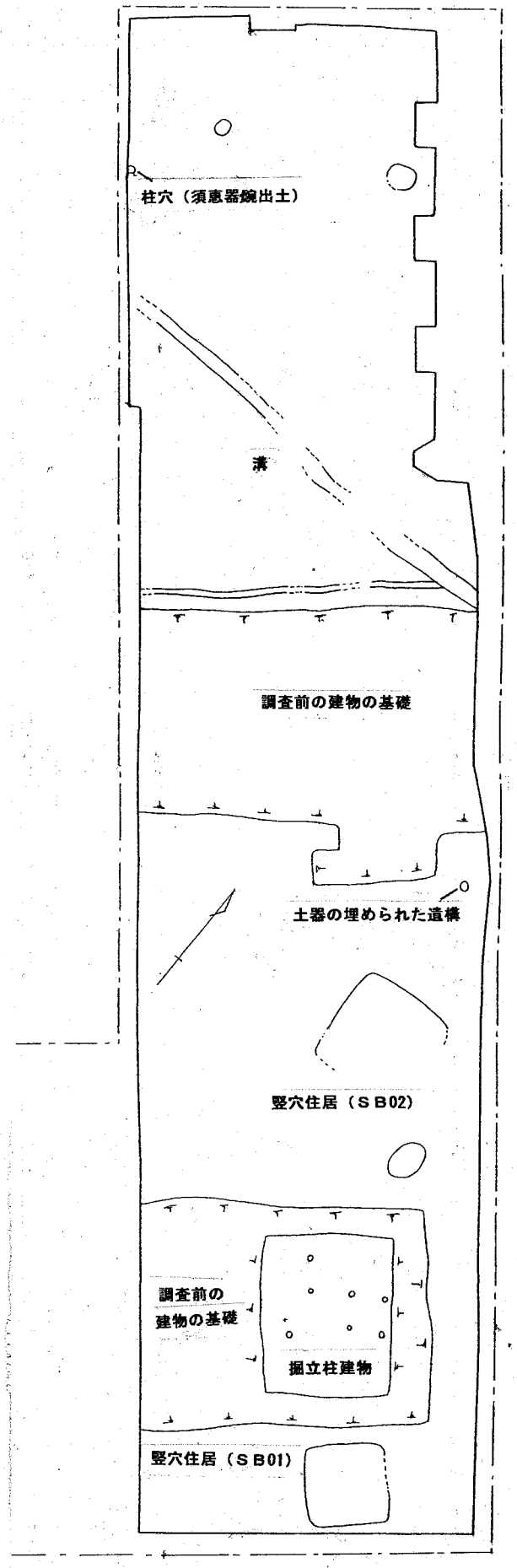
平安時代の建物は、地面に掘り込んだ穴に直接柱を立てる、掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）と呼ばれるもので柱穴と考えられるものがいくつかあります。調査区の北側では、須恵器（すえき）とよばれる焼き物の埦が入れられた柱穴もありました。

また、竪穴住居は２棟が確認され、いずれも四角い形のものです。調査区の南端でみつかった住居跡（ＳＢ01）は古墳時代中期のもので、一辺が約４ｍの規模で北側にカマドが設けられています。また調査区の中央部で見つかった住居跡（ＳＢ02）は、弥生時代後期のもので、一辺が 4.5m の規模をもつものです。

この他、古墳時代中期以前の溝や弥生時代後期の土器を埋めた穴なども確認されています。



竪穴住居復元図【『吉野ヶ里』より転載】



調査区遺構概略図　〔Ｓ＝1：300〕